

刈り取りが終わった田に積み藁の三角帽子が並びました。(二枚橋・須萱)



飯舘 百景

刈り取りの季節



手際よくハセ掛けする佐藤宣征さん(前田・八和木)。



「いいたて結い農園」のエゴマの収穫。(大久保・外内)



ライスレジンの米の収穫。(八木沢・芦原)

る風景ですね。青空も似合います。この中を子どもが走り回って遊んでいた時代もありました。また、佐藤宣征さん(前田・八和木)は刈り取った稲を今年もハセ掛けに。「楽しみにやっていたようなもの」と笑いながら見事な手際でどんどん稲を掛けていました。外内地区では『いいたて結い農園』の皆さんが、手塩にかけたエゴマを収穫。農園とつながりのある村内外の皆さんが大勢作業に参加していました。中には福島大学の学生たちの姿も。まさに『結い』の風景でした。八木沢・芦原地区では、プラスチック樹脂の原料『ライスレジ』用の米の収穫が行われていました。農地の活用には、様々な工夫、挑戦もあります。実りの秋、飯舘村の青空が一層美しく輝いていました。

澄んだ青空に、表情豊かな純白の雲。秋真っ盛りの飯舘村です。多くの方の努力、地域の協力によって、耕作を再開する農地が、年を経るごとに広がってきました。これまでの道のりを思い浮かべると、黄金色に染まる水田の風景が、二層誇らしく感じられます。稲刈りが終わった高橋政行さん(二枚橋・須萱)の田んぼに、積み藁がきれいに並んでいました。まだいな手技に、ほっこりする